

試合と競走

新聞 TV を見ていると、陸上や水泳を“試合”とはオカシナことを言う。

試合は“為合い”で対一の勝ち負け勝負である。柔道もボクシングも試合。対一勝負は勝敗の取り決めがあってそのルールでケリがつく。勝負は勝ちか負けの白星か黒星。競走競泳のように何秒とか何メートルとか測れない。競走と試合は本質異なっている。競走を試合といってカッコよい気分になっている様子が仄見えて気色がわるい。本質の違いが見えなくなったのは知的レベルの低下ではなかろうか。

体操競技を演技とはいつからいわれ始めたのだろう。“演”とは“おしひろめる”（常用字解：白川静）の意で、用例に演繹・演説・演奏・演義・演習など多数ある（岩波漢語辞典）。舞台や映画で俳優が演技する、というように演技はもっぱら芸能で用いられる。宮崎あおいや蒼井優は演技する。それとおなじ言葉、トーキョーのチャスラフスカヤや10点満点のコマネチが体操のマットや平均台のうえで演技しているとはヘンである。武闘競技は試合としか言わないが、対人試合ではないばあいだけに演武というが演技とはいわない。床技・吊技・跳技などの技を競う体操に新語を造語してマリリン=モンローとメアリー=ルー=レットンと一緒にしないでおかないことには、モンローにもレットンにも申し訳ない。